

- 1 . ロシアの宇宙政策動向基礎調査

Study on Russia's Space Activities -Current and Future-

 キーワード	国家安全保障、宇宙開発、ロシア、北東アジア
Key Words	National Security , space policy , Russia

1 . 調査の目的

ロシアとの国際宇宙協力のあり方を検討するにあたり、宇宙開発戦略の立案等を行う際に適切な判断が行えるよう、ロシアの宇宙開発制度、現状、将来計画等のロシアの宇宙開発動向に関する基礎的な事項を調査するもので、主として次の機関への訪問調査を行った。

ロシア戦略研究所(大統領令で設立)(国家戦略)

ロシア科学アカデミー極東研究所(対日政策)

ロシア連邦宇宙局(宇宙主務官庁)

ロシア科学アカデミー世界経済国際関係研究所(国家戦略・国際安全保障)

ロシア科学アカデミー宇宙開発研究所(IKI)(宇宙科学研究所と通称)

T SUMIMASH (技術評価機関)ROSCOSMOS 傘下

国有企業(エネルギー社ほか)

サンクト・ペテルブルク宇宙関係研究機関(省略)

2 . 調査研究成果概要

(1) 調査内容について

ロシアの宇宙活動に係る活動現況として、宇宙開発体制(政府組織、連邦宇宙局内の組織、意思決定体制)、宇宙関係法令、関税に関する法令、宇宙政策(2006年～2015年の連邦宇宙政策)、宇宙関連予算、プログラム別活動状況や宇宙関連企業の体制、宇宙関連企業と宇宙政府機関との関係などの国内問題、ほかにロシアが実施している国際宇宙協力活動などについて検討と将来予測を行うものである。

(2) ロシアの宇宙開発の構造と将来の活動動向

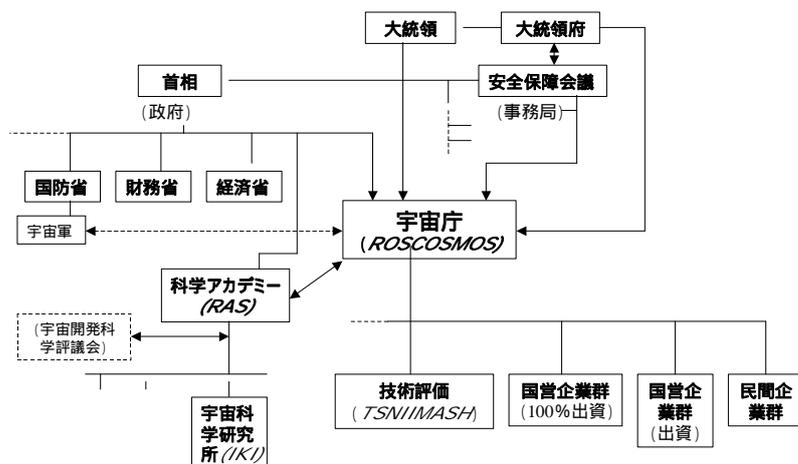
ロシアの宇宙開発の特徴

第1にその歴史的展開過程において軍事宇宙活動を発生基盤とする歴史的制約があげられ、民生宇宙を所掌する政府主務官庁である連邦宇宙局は欧米型の宇宙主務官庁(ないし宇宙機関)へと移行していく「過渡期」にある。第2にロシアは一時の経済的苦境を脱し、プーチン大統領の下に豊富なエネルギー資源からの経済的好転を背景に、旺盛な社会経済建設を進めており「社会経済建設の重視」で宇宙開発も大統領府の政治的イニシアティブを踏まえて将来計画が策定されつつある。

国際戦略(国際協力への視点)

現在の主要パートナーは欧州と米国である。ESAとの協力は加盟国全体の承認が必要で、決議に時間を要し契約までに時間が浪費される。米国は国内政治プロセスでプロジェクトが中止する可能性があり、危険性を持つ。ただし協力実務の面からは米国との協力は欧州よりも円滑で容易であるとみなしている。日本は実績が少ないが将来の重要なパートナーと期待している模様である。中国は先端技術のみ要求し、ロシアにとって経済的な見返りが少ないために協力関係は停滞している。安全保障面からも中国警戒感が存在する。

ロシアの宇宙開発体制



「2006 2015 年のロシア連邦宇宙プログラム」の要約

ロシアの宇宙開発は国防用宇宙活動と民生用宇宙活動から構成され、現在、軍事70%、民事30%と推測され民事用はこれから拡大基調にある。ロシアの連邦宇宙プログラムは軍事連邦宇宙プログラムと民生用連邦宇宙プログラムに二分化され、民生用連邦宇宙プログラムの将来計画は「2006 2015 年のロシア連邦宇宙プログラム」に示された。「2006 2015 年のロシア連邦宇宙プログラム」は予算規模は連邦予算資金 3050 億ルーブル(約 1 兆 4700 億円)及び誘致される予算外資金からなる。各年度毎の予算の伸び率は現在の経済成長率 6.4%を元に来年からは6%の経済成長率を算出根拠としている。

「2006 2015 年のロシア連邦宇宙プログラム」

項目		第1段階(- 2010年)	第2段階(- 2015年)
輸送系・有人宇宙開発	輸送系		
	国際宇宙基地(ロシア部分)	5モジュール	8モジュール
	宇宙基地(単独)		1基の宇宙機、 複数の単独宇宙機からなる 技術用複合宇宙集合体
地球観測	地球観測(リモセン)	統合衛星システム	
	気象衛星	5基	3(第4世代)2((第3世代)
	探査・救助衛星	2基	2基
通信・放送・測位	通信・放送		
	固定宇宙通信・テレビ放送	13基	26基
	移動通信 その他	6基	12基 2基(多目的中継)
	測位KOSPAS-SARSAT	2基	2基
宇宙科学	天体物理学研究用の宇宙複合体	2基	3基
	太陽及び太陽・地球関係を調査	1基	3基
	火星・フォボスのサンプルリターン	1基	
	月の探査		1基
宇宙環境モニタリング		4基	5基